

## Z世代に贈る「思考を揺さぶる映画鑑賞」 ～短編アニメーション映画「父と娘」の授業実践を通して～

松永 登代子\*

福岡県飯塚市立穂波東中学校（飯塚市立小中一貫校穂波東校中学部）\*



《父と娘》（2000年／8分／イギリス・オランダ合作／監督：マイケル・デュドク・デュ・ヴィット（1953-）／原題：Father and Daughter）を用いた本校での授業の一場面（2019年10月）※当時は知識構成型ジグソー法による授業を行っていた。

20代を中心に、ファスト映画視聴、倍速や10秒飛ばし視聴をする人が増えている。台詞で全てを説明する映像作品が増えたことがその一因だという。

本校における倍速や10秒飛ばし視聴の実体を調査・分析したところ、20代とほぼ同様の傾向を示していることが明らかになった。そこで、本研究では、あえて台詞の無い映画を見せて、台詞に頼ることなく、その概要と映画が内包する意味を捉える経験をすれば、一層広く深く鑑賞するなど映画の見方が変容するのではないかと仮説を立て、検証授業を実施・分析した。その結果、倍速や10秒飛ばし視聴に対する認識が変容するなど一定程度の成果を得ることができたので、報告するものである。

〈キーワード〉 動画コンテンツ ファスト映画 倍速視聴 飛ばし見 タイパ志向 ネタバレ

## 1. 本研究の動機

### 1.1 時短で映画を見る風潮とは

三省堂の辞書を編む人が選ぶ「今年の新語2022」で、「タイパ」が大賞に選ばれた。三省堂のHPで確認したところ、タイパとは、「タイムパフォーマンスの略で、費やした時間に対して得られる成果・満足度の割合」「時間対効果」のことを表す言葉で、「映画を通してみるのはタイパが悪い。〔録画したドラマや映画を倍速で視聴する、粗筋だけ分かるように編集されたファスト映画を見る、音楽のさびのみを聞くなどの行動に見られる、できるだけ時間を掛けずに効率よく成果を得ようとする風潮の中で多く使われる〕」<sup>1</sup> 言葉なのだそうだ。「映画を10分程度に編集した違法な動画『ファスト映画』をネット上に公開したとして、著作権法違反の罪で有罪が確定した」<sup>2</sup> という報道は記憶に新しい。ファスト映画は違法だが、映画を倍速や10秒送りで見るとは違法ではない。しかし、そんな見方で、作品の本当の良さを味わうことができるだろうか。

### 1.2 時短で映画を見る人とは

図1は、マーケティング・リサーチ会社のクロス・マーケティングが2021年に実施した「動画コンテンツを視聴する方法」の調査結果のデータ<sup>3</sup>を用いて稿者がグラフ化したものである。この結果から、調査対象者の30代から60代では、「よく倍速で視聴している」「時々倍速で視聴している」を合わせると、20パーセント前後で推移しているのに対し、20代では30パーセント以上に達していることが分かる。これらの年代を世代別に見ると、「60代50代はX、40代30代はY、20代10代はZと呼ばれる世代である」<sup>4</sup> ことから、Z世代は、X世代やY世代に比べて倍速で視聴する人が多いということが出来る。「この世代は、生まれたときから、あたりまえのようにインターネット環境が整っていて、情報を得たり、価値観を形成する際によりどころとしたりするところに特徴がある」<sup>5</sup> という。

図1 動画コンテンツを視聴する方法(1)

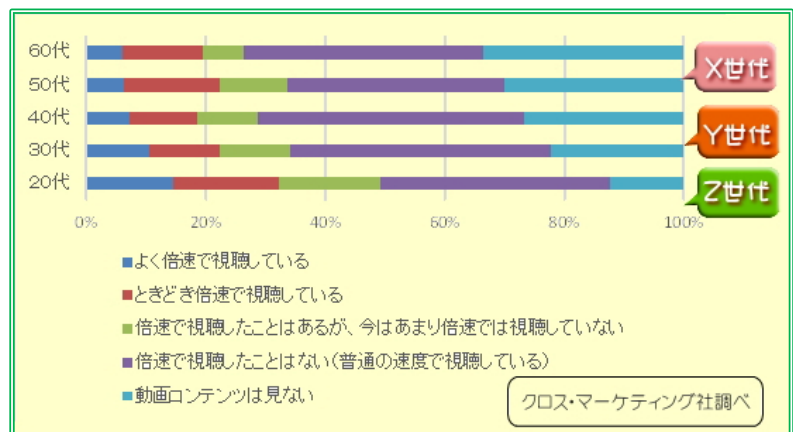
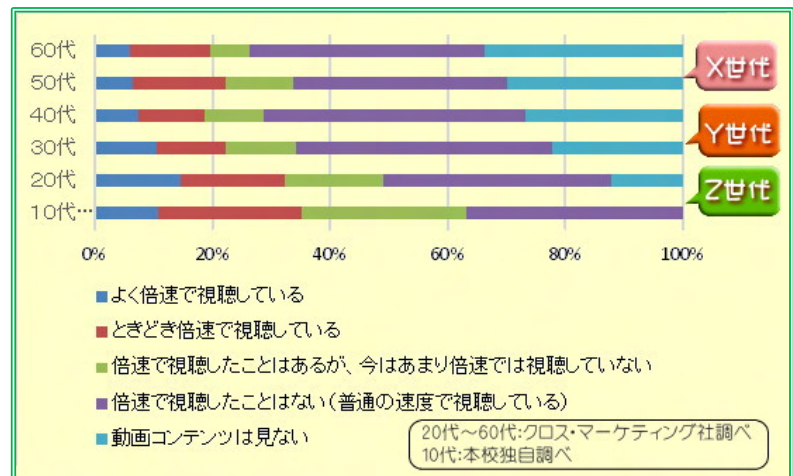


図2 動画コンテンツを視聴する方法(2)



### 1.3 中学生の動画視聴傾向

同様に Z 世代に属している中学生の動画視聴傾向はどうなっているのだろうか。クロス・マーケティング社の調査では対象外になっていたため、稿者は、本校中学部の生徒 222 人を対象に「動画コンテンツ視聴に関するアンケート」を行ってみた。その結果、図 2 が示す通り、「よく倍速で視聴している」「時々倍速で視聴している」を合わせると 30 パーセント以上であった。調査の時期、対象者の居住範囲が異なるので、単純に比較することはできないものの、やはり本校の生徒も 20 代と同様の傾向を示しているということができるとはのではないだろうか。

### 1.4 時短で映画を見る理由とは

いったい何がこうした視聴スタイルを生んでしまったのか。マーケティング情報サイト Transformation SHOWCASE (2022) の記事によると、「コンテンツが溢れ、それを見る時間が不足している現状の中で『見る・見ない』という選択肢だけでなく、『倍速で見る・定速で見る』という基準が新たに生まれている」ことと、「Z 世代ではコンテンツを視聴する目的の変化が顕著で、同じ動画を見ることで他者と経験を共有するという意味合いが強くなっている」<sup>6</sup>ことが原因のようだ。

一方、日本映画は、1990 年代の低迷期を経て、2000 年代には「わかりやすさ」が求められる時代に入っていた。例えば、行定勲監督 (2017) は、「テレビドラマが映画になって大衆の心を掴む。テレビは多くの視聴者に理解できるように創られることが前提だ。今、ヒットする映画の定義がドラマ化している。」<sup>7</sup>と述べている。また、ORICON NEWS (2020) は、映画「影裏」に関する記事の中で「説明過多な世の中。分かりやすいことがヒットの法則となり、多くの作品はより単純化されたエンターテインメントに偏りを見せている。そんななか『影裏』では登場人物の背景を含め、非常に多くの余白があり、見ている人間によって物語の解釈は大きく変わる。」<sup>8</sup>と解説している。さらに、是枝裕和監督 (2016) は、「僕の映画やドラマに顕著なのが『何を見せないか、何を語らないか』ということに挑戦することだ。それ自体が、多分今のテレビからは失われた価値観かもしれない。なにしろ、いまは見ていなくてもわかるテレビ、背中を向けていてもどんな話か分かるドラマを作らないといけないから。」<sup>9</sup>と述べている。

これらのことから、映画を時短で見る理由は、日本映画が、時短で見たい Z 世代のニーズに応え得る「わかりやすさ」という土壌を既に有していたからだとすることができるとはのではないだろうか。

### 1.5 思考を揺さぶる映画鑑賞とは

学習指導要領解説 (2017) では、「鑑賞は単に知識や定まった作品の価値を学ぶだけの学習ではなく、知識なども活用しながら自分の中に作品に対する新しい価値をつくり出す学習であると捉えること」、「作品などとより深く向かい合うことや、対話的な活動などにより自分の価値意識をもって批評するなどして、幅広く味わい、より主体的に見方や感じ方を深めていくことが重要である。」<sup>10</sup>としている。

マイケル・ライアンら (2014) は、「映画製作者は単に物語を語っているのではなく『意味』を作っている。」<sup>11</sup>「映画製作者たちが、無意識のうちに、自分の属している文化に由来する意

味づけを行っていることもある。」<sup>12</sup>としている。また、「映画製作における（このような）手続きや、装置や技巧は、みなストーリーを形成し、意味を作り出す。『なぜこの映像なのか』『なぜこの装置、手続き、技巧を使っているのか』を問うことから、それが意図している意味の次元やレベルが明らかになってくる。」<sup>13</sup>という。そして、このような「物語の意味の形成には、メタファー（隠喩）、構造、人物、モチーフがかかわっている」<sup>14</sup>という。（表1参照）、

表1 物語の意味の形成にかかわること

メタファー (隠喩)	あるものが観念や感情状態と結び付けられている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの異なった物事を比較することによって意味を作る</li> <li>・人物と物事を結び付ける形で使われることが多い</li> <li>・メタファーが登場人物の内面の感情状態を伝える</li> <li>・状況を強調するのに「自然」を使う</li> </ul>
構造	ある要素と別の要素がバランスをとる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・映画の中の要素は互いに補完し合っている</li> <li>・異なった価値観や特質を持った人物が互いにバランスをとっている</li> </ul>
人物	人物の成長は意味付けの在り方となる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観念と登場人物の構造は、「自然」と「人工」といったメタファー的な対比によっても支えられる</li> </ul>
モチーフ	感情、観念などを喚起する、物事など繰り返し現れる要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話の途中で現れる物、音、映像などのテーマを思い出させるような何か</li> </ul>

このことから、本稿では、「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」について、生徒同士で発表し批評し合い自分の気付かなかった作品のよさを発見するなどして、定まった作品評価に左右されず自分なりに一層広く深く鑑賞することを「思考を揺さぶる映画鑑賞」と位置づける。

## 2. なぜ「短編アニメーション映画『父と娘』」なのか

### 2.1 「父と娘」はネタバレしにくい

本作は、2000年にイギリスとオランダで合作された短編アニメーション作品である。2001年アカデミー賞短編アニメ賞を受賞したことから、世界各国で公開された。日本でも、クレストインターナショナルが配給権を取得し、2004年に劇場公開され、後に絵本やDVDも発売されている<sup>15</sup>。これらの邦題が「岸辺のふたり」だったことから、今でも日本では「岸辺のふたり」の方が通りが良い。しかし、2016年、スタジオジブリが本作品の監督でもあるマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット（1953—/オランダ）監督の「レッドタートル ある島の物語」公開を機に日本での配給権を再取得し、2017年、Blu-ray 発売時に、他4作品と共にマイケル・デュドク・ドゥ・ヴィット作品集として本作を挿入した際に、邦題が原題の「Father and Daughter」の直訳である「父と娘」に変更された<sup>16</sup>。このため、本作は「父と娘」では検索しにくい状況にある。

一方、牧島夢加（2021）によると、「Z世代には分からないことがあったら、考えるよりも先に検索する」習慣が当たり前のようにしている。そんなZ世代の間ではいま、観たい映画や今度行くライブの中身、友達に渡す誕生日プレゼントなど、何でも事前に『ネタバレ』することがトレンドになっている。」<sup>17</sup>のだという。

このように、自らネタバレを求めて検索するZ世代の生徒も、本作においては自ら思考する以外に解釈の方法がない。このことから、本作は「思考を揺さぶる映画鑑賞」のための授業実践の有効性を高めると予想した。

## 2.2 「父と娘」は台詞で判断することができない

本作の特徴は、何より台詞が無いことである。監督 (2016) は、「レッドタートル ある島の物語」でも台詞を一切なくしており、その理由として、「セリフがないということは、登場人物の息吹も自然とより豊かになるのです。」<sup>18</sup>と語っている。生徒には、映像や音楽からその息吹を深く感じ取ってもらいたい。

## 2.3 「父と娘」には随所に思考を促す仕掛けが仕込まれている

監督は、本作の日本公開時 (2003) に、次のようなメッセージを寄せている。『『岸辺のふたり (原題「Father and Daughter」)』のストーリーは、『人が一生のあいだ抱き続けた、密やかだけれども強い願い』を描いたシンプルな物語です。私はこのようなフィルム作品、そして本を創りたいとずっと思っていました。人間の中にある、こうした『密やかだけれども強い願い』というものが、途方もなく美しいと思ったからです。この物語では、オランダの平坦な大地と対比させて、別れた父親を、一生涯慕い続ける女性を描きました。繊細さは大切にしたところ です。また、時間の流れや空間的な広がりを感じさせながら、ひとりの長い一生の時間を、ほんの数カットのイメージに凝縮して描くことは、わたしにとってひとつの挑戦でした。それが実現し、この物語を日本のみなさんに紹介する機会を得られたことは、大変うれしいことです。日本の芸術作品から、わたしはしばしば、刺激を受けてきました。独創的で、時間の流れや空間的な広がり、優れた感覚を感じています。そしてそういったものを、わたしはたいへんすばらしいと思っているのです。』<sup>19</sup>

そして、アカデミー賞ノミネート時点 (2001) には、「20世紀初頭から末期の古き良き時代のオランダが舞台であり、そのために年代や乗る人によって変化する自転車は何枚もスケッチしたこと、透明感を出すために木炭を使用したこと、黒澤明監督の『七人の侍』の風に揺れる草や竹やぶを抜ける風の表現から自然現象を取り入れる着想を得て、とりわけ雲はおびただしい数のスケッチをしたこと」など<sup>20</sup>を語っている。

## 3. 本研究の目標

日本経済新聞 (2022) によると、「生活行動の高速化を求める比率は1999年の37.4%から、2019年に57.4%へ上昇したという調査結果があるなど、日本はタイパ志向に突き進んでいる」<sup>21</sup>という。また、マーケティング情報サイト Transformation SHOWCASE (2022) は、「倍速視聴は今後も廃れることはなく、1つの視聴スタイルとして定着していく」<sup>22</sup>と予測している。このことから、本校における倍速や10秒飛ばし視聴などのタイパ志向の動画鑑賞の割合は、2022年時点では3割強といったところではあるが、今後増えていく可能性を感じる。

一方、行定勲監督 (2017) は「(ヒットする映画の) 定義で作られた映画に観客が慣れてきている。しかし、そこにある“わかりやすさ”と引き換えに映画の芸術性は失われていったように思う。はたしてこの状況に観客は本当に満足しているのだろうか。」「観る者はもっと多様な映画を見る自由に気付くべきである。」<sup>23</sup>としている。

だからこそ、中学生のこの時期に「思考を揺さぶる映画鑑賞」の授業を通して、一層広く深

く鑑賞することで、自ら観たい作品を選び、独自の感じ方で作品世界を楽しむ自由に気付いてほしい。そして将来は、「映画というのは、自分が気の向くままに選んでこそ、後悔をしない」<sup>24</sup>のものであり、「映画を観るといのは、単に鑑賞することを越えて『体験』になり」、「新しい体験は人間の世界観を変える」<sup>25</sup>ことを実感してほしいと思う。

## 4. 授業計画

### 4.1 本題材に係る過年度の取り組みから

表2は、本題材に係る過去の実践をまとめたものである。尚、対象学年はいずれも中学3年生である。

表2 短編アニメーション映画「父と娘」の鑑賞授業の本校における過年度の実践

年度	配時	備考
2017年度	1時間	この年度は、東芝 EMI 発売の古い DVD を使用していたので、邦題が「岸边のふたり」だったために、生徒は二人が親子の関係と分からず、概要の解釈もままならなかった。
2018年度	3時間	稿者は、この時点では邦題が「父と娘」に変更されていることを知らなかった。しかし、前年度の反省から、邦題を伏せて、原題の「Father and Daughter」を用いて授業を行ったところ、前年度のような混乱は生じなかった。また、当時は、知識構成型ジグソー法による研究が全市を挙げて行われており、本題材もこの方法で授業を行った。エキスパート資料を「自転車と船の関係を考えよう」「作者について知ろう」「舞台の背景を知ろう」と設定し、その後のジグソー活動、クロストークによって、製作意図の解釈を行うことができた。しかし、エキスパート資料を授業者より生徒に提示してしまったために、解釈のお仕着せになってしまっているという課題が残った。
2019年度	5時間	前年度と同様に知識構成型ジグソー法による授業を行った。しかし、エキスパート活動では、前年度の反省を踏まえ、生徒が疑問に思ったことや、何となく気になること、もっと深く考えてみたいことの中から3つ選んでエキスパート資料とした。また、総合的な学習の時間も使って、鑑賞文を書くことを到達目標とした。稿者が当該学年で総合的な学習の時間の担当だったために実現できたことであるが、この経験から、授業展開の最後は、個人思考の時間に戻すべきと考えられるようになった。

### 4.2 本題材に係る生徒の既習事項

表3は、中学3年生（2022年度）の美術科と国語科における既習事項をまとめたものである。

表3 短編アニメーション映画「父と娘」の鑑賞に係る既習事項

教科	学年	内容
美術	1年次より随時	対話による意味生成的な鑑賞
	2年	ゲルニカの鑑賞を通して具象表現と抽象表現の関係
	2年	アニメーションの製作
	3年	博多で活躍した仙厓義梵を中心とした禅画の鑑賞と制作
国語	2年	美術科の鑑賞資料からお気に入りの一作を選んで鑑賞文作成
	3年	論説文より具体表現と抽象表現の関係

### 4.3 本年度(2022年度)の授業計画

#### 4.3.1 単元目標

- 構図や動き・コマ割り・時間の経過・色・音楽などに着目し、物語の概要をつかむことができる。(知識及び技能)
- 物語の意味について、自分の価値意識をもって解釈することができる。(思考力、判断力、表現力等)
- 映像作品を鑑賞することに関心を持ち、話し合い活動や発表に進んで取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

## 4.3.2 単元指導計画

表4 授業計画(全3時間)

次	配時	内 容	設定理由
第一 次	1 時 間	「物語の概要をつかむ」 ・鑑賞する。(1回目) ・物語の概要を自分なりに考える。 【一人学び】 ・対話による意味生成的な鑑賞を行い、クラスみんなで物語の概要を考える。【学び合い】	◆本作は台詞が無いので、概要をつかむことが難しい生徒も多いと予想されるため、対話による意味生成的な鑑賞を行い、クラス全体で物語の概要をつかませる。
第二 次	1 時 間	「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいことを挙げる」 ・作者のプロフィールや作者の出身地であるオランダの歴史や文化を知る。  ・「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」をメモしながら鑑賞する。(2回目)【一人学び】	◆2017年度の授業実践の課題から、本時の課題に入る前に生徒になじみのない外国作品の背景を知識として学ばせ、これを活用しながら鑑賞させる。 ◆2018年度の授業実践の課題から、みんなで考える内容を生徒から出させる。
第三 次	1 時 間	「物語の意味を考える」 ・みんなの「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」を知る。 ・対話による意味生成的な鑑賞を行い、みんなが気になったことについて話し合う。【学び合い】 ・対話による意味生成的な鑑賞の内容を想起しながら鑑賞する。(3回目) ・物語の意味について、自分なりの考えをまとめる。【一人学び】	◆みんなが気になった「メタファー（隠喩）、構造、人物、モチーフ」について対話による意味生成的な鑑賞を行い、みんなで物語の意味に迫らせる。  ◆手塚真（1989）が、「各人が何を視て何を見ているかは当人の人生上の興味によって異なる。」 「映画に何らかの性格を持たせ、意味を与えるのは、作り手にそのすべてが委ねられているのではない。観客の眼が映画のすべてを判断する。 <sup>26</sup> 」 としていることと、2019年の授業実践の成果から、題材の終末は【一人学び】の場とし、自分なりの考えをまとめさせる。

註1) 表中の【一人学び】と【学び合い】とは、「穂波東校授業スタンダード」<sup>27</sup>に基づく学習過程において、課題に対して、自分なりの考えをもつ個人思考（一人学び）の場面と、一人学びの中で考えたことや分からなかったことを、ペアやグループの中で伝え、よりよい解決方法を協働で見つけようとする集団思考（学び合い）の場面を指す。

註2) 【学び合い】における「対話による意味生成的な鑑賞」においては、稿者がファシリテーターの役割を担い、発言者に考えの根拠となるものを明確にさせ、極端な妄想にならないように留意する。

## 5. 授業の実際

## 5.1 第一次の授業の実際

## 5.1.1 一人学びの段階

表5はあるクラス（以下、モデルクラス）の生徒が【一人学び】の段階で記録した物語の概要を表にまとめたものである。

表5 物語の概要【一人学び】の段階

出席生徒の 通し NO. <sup>28</sup>	内 容
1	死後の世界でお父さんと再会する物語
2	娘の人生の物語
3	未記入
4	船でどっかに行った父を待ち続ける娘。最後、娘も死んだ悲しい物語。
5	未記入
6	娘と父が離れて、最後に天国で出会う。
7	父が居なくなって、娘が父が来るのを待っている。
8	父が帰ってくるのをずっと待っていて、あの世で再会する。
9	風が強くても雨が降っても耐え忍ぶ話
10	一回離れたけど、亡くなっても再会する話
11	父が娘を置いていき、娘は成長しながらも、ずっと父のことを気がかりに思っていた。ある日、父が亡くなっていることを察して、自身も亡くなってしまう。
12	娘が父を待っている。娘が死ぬ前の走馬灯
13	父を長い間待っていた。
14	船で遠くに行った父を娘が待ち続けていた。最後に父の乗っていた船を見つけて父が亡くなったことを悟り、自分もそこで死んだ。そして父と再会
15	父が死んだ後も、父への愛が変わらず、父が死んだことを受け止められない娘は、何年経っても同じ場所で待っていたが、娘も亡くなり、天国で再会できた話
16	娘＝犬、父＝ご主人と代入すると、帰って来ないご主人を待ち続けた犬の話
17	父は旅をするために娘と別れた。娘の父への愛は変わらず、最後は父の死んだ場所で娘も死んだ。
18	娘が父の帰りを待っていたけど、帰ってこず、何回も見に行っていたら、父のボートがあり、娘も年をとって亡くなって、父と会った。
19	父が娘を置いて旅に出る。娘は父の帰りを待つが、次第に年をとり、娘も死んだ。
20	両親が先に天国に行き、取り残された娘が、その後の人生を歩み、おばあちゃんになって、最後に寿命で亡くなった話。
21	離れ離れになった父と娘が天国で再会した話

## 5.1.2 学び合いの段階

表6 はモデルクラスの生徒がみんなでも物語の概要をつかむまでの対話による意味生成的な鑑賞の記録をまとめたものである。

表6 物語の概要【学び合い】の段階(対話による意味生成的な鑑賞)

教 師	生徒の NO.	生 徒
①この作品の中で何がおこっていましたか？	9	めっちゃ風が強かった。
	6	風に抵抗して坂道上りよった。
	9	雨にも負けず、風にも負けず、めっちゃ頑張った。
②誰が頑張ってた？	2	娘。
	3	あの女の子、娘なん？
	2	タイトルが父と娘やささ。
	3	あーね。なら、あの男の人は父親でね。
	6	誰か思いよったん？
	3	なんか、よ一分からんかった。
	6	娘と父が離れて、最後に天国で出会う話なんよ。
	13	先生、父親と娘は死んだんですか？
③どうかな？みんなはどう思う？	口々に	死んだと思う。
④なぜ、そう思った？	18	父のボートが難破しとったから。
	14	娘もその舟で死んだ。
	4	あれち、おんなじ舟なん？
	9	わからんけど、そうやる？海の水がなくなって、難破船が出てきたんやない？
	14	だきね、娘もその舟で死んだんやない？



	8	父が居なくなって、娘が父が来るのを待っていたけど、やっぱり父は死んどって、娘も最後死んで、あの世で再会する。
⑤なるほどね。 みんなもそう思う？ 何か、別の考えがある人？	12	娘が死ぬ前に見た走馬灯
	みんな	なるほど。すげ〜。パチパチ！
	16	先生〜。僕も別の考えがあります。
⑥はい。どうぞ。	16	娘に犬、父にご主人を代入すると、帰って来ないご主人を待ち続けた犬の話。
	みんな	どっと笑い声
	16	だって、父親が亡くなったことが分からんとかありえんやろ。毎日じっと待つとか。
	14	それは、例えで、それほど娘が父親を愛しとったってことやろ？
	みんな	NO.14に同意
⑦私も犬とご主人様の話ではないとは思うけど、さっきから、凄いキーワードが出てきています。16さんは代入と言ったけど、まさに、それはこの授業で今後みんなに考えてほしいことなんです。映画の中に出てくるキャラクターとか場面とかを他のものに置き換える、別の意味がないか考えるということです。16さん、よく代入に気づいたね。	みんな	お〜。
⑧14さんの例えという言葉もそうよね。娘の気持ちを娘の行動で例えたということ、娘が父をどれほど愛していたかを表すために娘が父を待ち続けるシーンを描いたということ。	みんな	お〜。パチパチ。
⑨そもそも、娘はあの場所に行っていたのかな？	みんな	は〜い。実際に行っていました。
⑩違うと思う人はいませんか。	みんな	...

## 5.2 第二次の授業の実際

### 5.2.1 一斉授業での説明

プレゼンテーションソフトを用いて、事前に監督や舞台背景について説明を行った。(図3参照)

図3 事前説明の内容

オランダと言えば・・・

- 自転車の普及が世界一
- 全国民が乗っている
- 年齢に合わせて様々な種類がある

オイルショック  
海拔0メートル

マイケル・デュドク監督とは  
マイケル・デュドク・ドウ・ヴィット  
(1953~/オランダ)  
生活のためにアニメーションなどを制作  
禅画や日本映画の影響を受けている

これでいいの？  
自分の表現したいものは・・・

ポルダー：低湿地の干拓によってつくられたオランダの土地のこと

干拓とは～河川や海などに堤防を築き、堤防内の水を無くして陸地をつくること  
オランダでは国土の4分1が海拔よりも低い土地なので、堤防によって洪水の侵入を防いでいる

長い年月がかかる

### 5.2.2 一人学びの段階

監督や舞台背景の説明の後、2度目の鑑賞をし、何となく気になること、疑問、もっと詳しく考えてみたいことを、ノートにまとめた。図4は、モデルクラスの生徒の記録を可視化したもので、出現率をフォントの大きさで、自分なりの考えに至っているものを青のフォントで表している。<sup>29</sup>

図4 何となく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと（図：著者制作）

**何となく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと**

**途中で自転車がなくなった** 14

**最後の父との再会の時、幼女ではなく娘の姿なのは？** 7

**娘とすれ違う女性** 6

**最後の場面だけ自転車が何度も倒れる** 4

年老いてもずっと父を待っていた 船で眠った後、すぐに父親に再開した場面 **娘が夫と自転車に二人乗りしている場面 この場面だけは何もせずに通り過ぎた 父よりも夫の存在の方が大きくなった** 懐中電灯の光？ 娘の服が時々色がついている 海にあった船が自分の父の物だとなぜわかったのか なぜ娘を置いていったのか？（ポルターを作るために船に乗って出て行った） 子どもたちはその後どうなったのか？ 夫と子供たち？ 父は死んだのか？ 陸になってからはじめは下に降りなかった 女の子が父親を捜しに来た時の情景が暗い 娘の心情 女の子は娘の家族か？ なぜ船の上に寝たのか

自転車のスピードが違う **娘は父のことをどう思っているだろうか 父は娘をどう思っているか** 立ち止まった場面 船の周りにだけ草が生えていた 4人のシーン **情景が娘の気持ちによって明るくなったり暗くなったりする** 車輪が反時計回りに回っている 時間が戻っている 船があるところだけ草が生えていなかった 途中で出てきた大きな木？

父が船で出ていった理由 なぜ娘を置いていったのか 娘はどうやって生きてきた？ 自転車をこぐことができないのに自転車を手放さなかったのは？ 夜に自転車で走っているのはなぜ？ 鳥の意味 なぜ父はどこかに行ったの？ 最後は自転車を押して父の所に行った 足腰が弱っている 水が干上がっている

**娘が目を覚ました時、周囲に草がほとんどなくなっている 娘は結婚して子供を産んでいた 続編は娘の子どもが母を探しに行く その繰り返し**

### 5.3 第三次の授業の実際

#### 5.3.1 学び合いの段階

図4を用いて、みんなの考えを共有したのち、対話による意味生成的な鑑賞を行い、メタファーや構造、人物、モチーフの意味を考えた。表7はモデルクラスの対話による意味生成的な鑑賞の様子をまとめたものである。

表7 メタファーや構造、人物、モチーフの意味(対話による意味生成的な鑑賞)

教師	生徒のNO.	生徒
①「途中で自転車がなくなった(図4)」ことについて考えてみたいという意見が多かったですが、自転車はいつなくなったんですか？	16	嵐の後です。だから、嵐で自転車がなくなったと見せかけて、実は、娘が持って帰りました。
	みんな	笑い
②なるほど、なぜそう思った？	16	今日は、見かけの意味と違う意味を考える授業だからです。
	みんな	笑い
③なぜ持って帰ったのかな？	16	娘が大きくなって、父の自転車に乗れるようになったから、自分が使うために持って帰ったとか、形見として持って帰ったとか考えられます。
④形見ということは、お父さんはこのとき、すでに亡くなっているのかな？	16	はい。このとき、お父さんは亡くなったと思います。
	10	「最後の場面だけ自転車が何度も倒れる(図4)」ことにも関係してるんですけど、自転車は人の寿命を表していると思うので、このときに父が亡くなったと思います。
⑤なるほど。自転車が人の寿命を表している	2	私は、父が亡くなったのは、船で海に出て行ったときとか、自

という意見でした。このことについては、今、10さんが言ってくれたように、最後の場面にも関係しているので、あとでまた話題にしたいと思います。15さんと10さんは、お父さんの自転車が消えたとき、お父さんが亡くなった、死んでしまったという意見でした。つまり、自転車が消えたことで父の死を表しているということですね。別の意見はありませんか。		転車がなくなったときより、もっと早かったと思います。このとき、娘が父が帰ってくるのをあきらめたんじゃないかと思います。
⑥なるほどね。なぜそう思いましたか？	2	娘は、それまで一人で父と別れた道を通っていたんですけど、この自転車がなくなったあとは、友達とか恋人とか家族と一緒に通うからです。
	みんな	お～
	6	2さんと同じような意見なんですけど、このとき、娘は、父の死を受け入れたんだと思います。
⑦なるほど。自転車が消えたことは、父がこのとき亡くなったということを意味しているのではなく、娘が、父が帰ってくるのをあきらめた、父の死を受け入れたということを表しているということですね。	6	娘が、父から精神的に独立したんだと思います。
	みんな	すげ～
	参観者	公開授業だったために参観者からも感嘆の声が漏れる
⑧父からの精神的独立・・・いずれにしても、ずっと放置されていた自転車が嵐の後なくなったことは物語の意味の形成に大きく関わっていそうですね。	9	めっちゃ、あります。
⑨では、さっき10さんが言ってくれた自転車の意味についてももう少し考えてみましょう。10さんの意見は、自転車が人の寿命を表しているということでしたが、別の考えの人はいませんか？	13	自転車は家族の愛をつなぐものだと思います。
⑩なぜそう思いましたか。	13	娘が父親のことを思い出したときに自転車が登場するからです。
⑪具体的には、どのシーンですか？	13	「懐中電灯の意味について考えたい(図4)」という意見があるんですけど、私も初めは懐中電灯と思ったんですが、さっき映画を見直したときに、あれは懐中電灯じゃなくて、自転車のライトだと分かったんです。自転車の音がしてたんで。それで、あの日、娘は恋人と一緒に二人乗りしてて、自転車がなくなった場所で止まらなかったんで、夜になって思い出したから、自転車でお父さんと別れたところまで行ったんじゃないかと思って。
⑫なるほど。今の意見は、「夜に自転車で走っているのはなぜ?(図4)」という疑問にも通じますね。自転車の意味について、別の意見はありませんか。	3	13さんの言っていたシーンで、僕は、逆に父親が娘が自分のことを思い出さんやっことを心配して、娘のところに来たのかと思いました。
⑬なるほど。お父さんが娘の様子を見に来ていたということね。	2	お父さんは、死んだんやなかったん？
	3	天国から来たかもしれんし、親子の別れは死別とは限らんやん？
	2	あーね。
⑭自転車について他に意見はありませんか。	16	自転車の車輪が回ると過去に戻るんですよ。
⑮考えてみたいことの中にもあったね。「車輪が反時計回りに回ると、時が戻っている。(図4)」このことですか？	16	そうです。
⑯よく細かいところに気付いたね。気づいていなかった人は、後でもう一度再生しますから、よく見てください。車輪がアップになった時に、逆回転しているときがあります。	16	そうです。
⑰では、「最後の場面だけ車輪が何度も倒れるのはなぜだろう(図4)」に移ります。10さんはどんな考えですか。	10	自転車は人生や寿命を表していると思うので、娘が死ぬことの暗示だと思いました。
⑱その他の考えはありませんか。	6	10さんと似たような意見ですが、私は、娘が人生をあきらめ

		た、娘の人生の終わりを表していると思いました。
⑱だいたいみんな、6さんや10さんと同じような意見ですか。	14	私は、今にも亡くなってしまいそうな娘の命の代わりに自転車が倒れたんじゃないかと思いました。
	12	私も14さんと同じように思いました。娘が最後にボートのところに行って父親に会えるまで自転車が娘の死を引きとめたと思いました。
⑳なるほど。では、最後に、その最後のシーン「父との再会するとき、幼女ではなく娘の姿なのはなぜだろう」を考えてみましょう。	18	父が死んだときの娘の姿。
	1	自分の成長した姿を見せたかった。
	11	自分の一番幸せな時を見せたかった。
㉑では、最後は駆け足になってしまったけれど・・・	16	先生、あと一つだけ。「娘とすれ違う女性」について、僕は、今の自分と過去の自分だと思っているんですけど、みんなの意見が聞きたいです。
㉒では、このことについて発表できる人。	3	父が娘を見に来ていたんだと思います。
	21	お父さんを探している人だと思います。
	17	娘自身を表していると思います。
	4	鏡に映った自分です。
	16	すれ違うときのベルの音が年齢を表しています。

### 5.3.2 一人学びの段階

表8は、モデルクラスの生徒が第一次の【一人学び】の段階で記録した物語の概要と第三次の【一人学び】の段階で記録した物語の意味の比較に、授業後の感想を付記したものである。

表8

生徒のNO.	物語の概要
	物語の意味
	本題材に対する感想
1	死後の世界でお父さんと再会する物語
	父と娘の関係はいつまでも変わらないということ
	読み取ることが難しかったが、楽しかった。
2	娘の人生の物語
	家族愛
	考察を深めていくにつれて、映画を観なおすたびに違う見方ができて面白かった。
3	未記入
	親は無くとも子は育つ
	今後、映画を観る参考になった。普段は観た後は観たまま終わるけれど、友達と話すことで新たな気づきがあったし、別の考えを聞くことによって、自分の考えを深めることができた。
4	船でどっかに行った父を待ち続ける娘。最後、娘も死んだ悲しい物語。
	親子の絆の深さ？
	欠席
5	未記入
	人の心のやさしさ
	欠席
6	娘と父が離れて、最後に天国で出会う。
	もっと身近な人を大切にすること
	みんなが分かりやすく説明してくれたので、分かりやすかった。
7	父が居なくなって、娘が父が来るのを待っている。
	親が居なくても成長できる
	未記入
8	父が帰ってくるのをずっと待っていて、あの世で再会する。
	親は無くとも子は育つ
	これまで、いろいろ考えながら観ることが無かったので、難しかった。
9	風が強くても雨が降っても耐え忍ぶ話
	親の娘の幸せを願う気持ち
	みんなと話し合うことで、自分では気づけなかったことに気づくことができた。
10	一回離れたけど、亡くなくても再開する話

	人間のたがいを思いあう気持ちの深さ これから映画を観る時に違った見方ができるので、良かったです。
11	父が娘を置いていき、娘は成長しながらも、ずっと父のことを気がかりに思っていた。ある日、父が亡くなっていることを察して、自身も亡くなってしまう。 一歩を踏み出さずか踏み出さないかで、人生は大きく変わってしまうということ 想像力が無意識に働く面白さを知ることができた。
12	娘が父を待っている。娘が死ぬ前の走馬灯 娘は父に会いたい。父は娘の成長を見たい。 最初、どのような物語なのか理解できなかったが、ポルダーなど、オランダのことを学ぶことで少しずつ理解できた。
13	父を長い間待っていた。 自転車は家族をつなぐ 未記入
14	船で遠くに行った父を娘が待ち続けていた。最後に父の乗っていた船を見つけて父が亡くなったことを悟り、自分もそこで死んだ。そして父と再会 親子の絆 動画が作られた国のことについて知ることで、時間の流れや伝えたいことが分かった。
15	父が死んだ後も、父への愛が変わらず、父が死んだことを受け止められない娘は、何年経っても同じ場所で待っていたが、娘も亡くなり、天国で再会できた話 親子の愛の強さ どんどん深く映画を観て行って、小さいところを発見するのが難しかった。同じ映画を何度見ても同じところにしか目が行かなくて大変。でも、色んな事に気づけて楽しかった。
16	娘＝犬、父＝ご主人と代入すると、帰って来ないご主人を待ち続けた犬の話 幸せに生きてほしいという親の願い 楽しくて、発想力が豊かになった。
17	父は旅をするために娘と別れた。娘の父への愛は変わらず、最後は父の死んだ場所で娘も死んだ。 家族愛 自分では考えつかないような発想があって面白かった。
18	娘が父の帰りを待っていたけど、帰ってこず、何回も見に行っていたら、父のボートがあり、娘も年をとって亡くなって、父と会った。 親は無くても子は育つ 未記入
19	父が娘を置いて旅に出る。娘は父の帰りを待つが、次第に年をとり、娘も死んだ。 年をとると物も古くなる。 言葉が無い映画を観て、人物の行動や風景から、人物の感情や話の流れをつかむことができた。
20	両親が先に天国に行き、取り残された娘が、その後の人生を歩み、おばあちゃんになって、最後に寿命で亡くなった話。 禅の精神 映画を見て何となく意味が分かったけれど、未だわからないところがありました。
21	離れ離れになった父と娘が天国で再会した話 家族の愛の力はものすごいものなんだよ。 とっても楽しかった。またしたい、貴重な体験だった。

## 6. 成果と課題

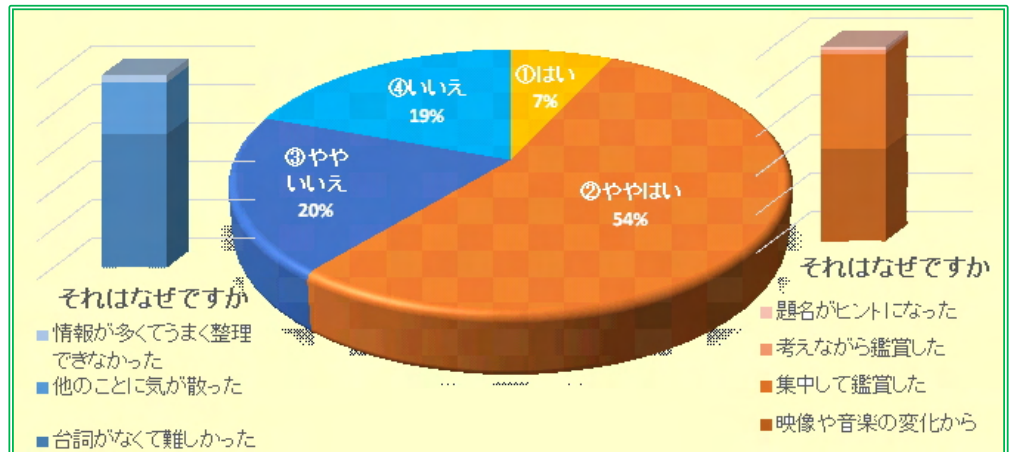
### 6.1 成果

第一次では、映画視聴後に【一人学び】と【学び合い】の二段階で物語の概要をつかんだ。台詞の無い映画なので、当初、ひとりでは概要を理解することができない生徒が多いと予測し、【学び合い】の時間を十分に取っていたが、授業後にノートを点検してみると、大半の生徒が【一人学び】の段階で物語の概要を自分なりに理解しており、概要が未記入だった生徒は全体の2割に満たなかった。これは、授業後に行ったアンケートで「【一人学び】の段階で物語の概要が理解できましたか」の問いに対し、「いいえ」と答えた生徒が19%だったのと合致する。

（以上、図5参照）

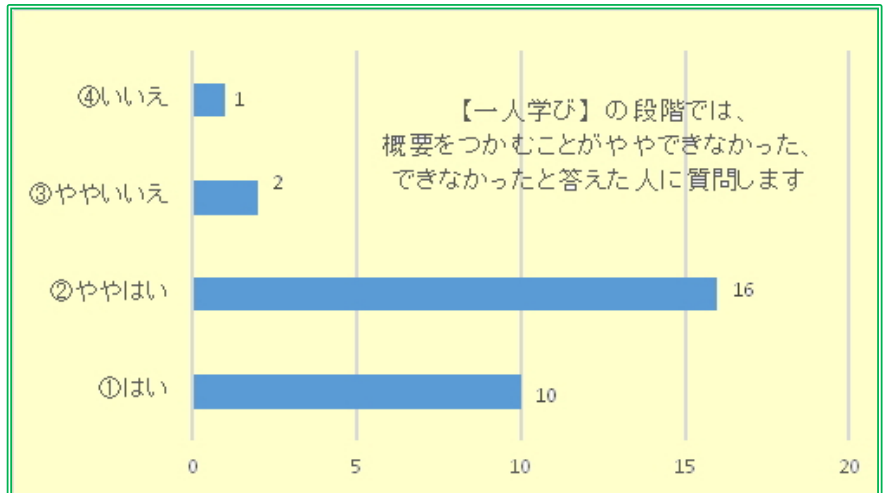
しかし、39%の生徒が「ややいいえ」「いいえ」と答えており、これらの生徒を対象に【学び合い】は物語の概要を理解するのに役に立ったかを聞いたところ、9割以上の生徒が「はい」「ややはい」と答えている。

図5 【一人学び】の段階で物語の概要が理解できましたか



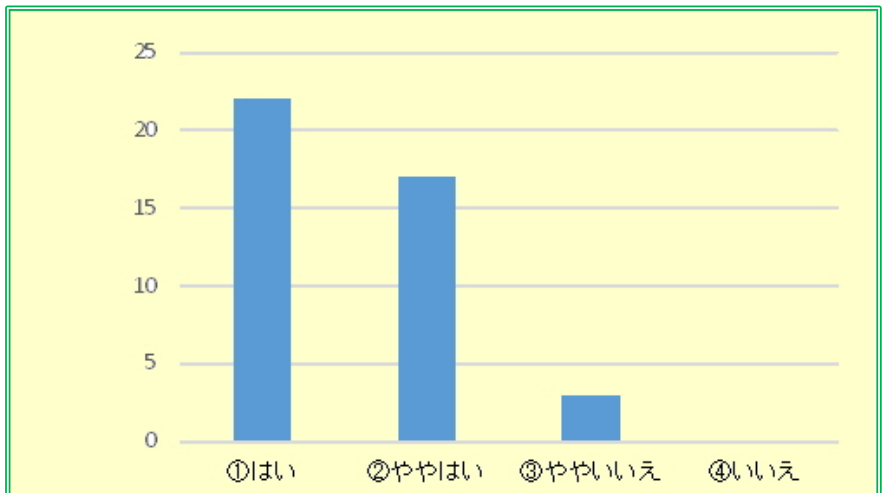
（図6参照）このことから、第一次で【学び合い】（対話による意味生成的な鑑賞）の場を設定したことは、生徒が物語の概要をつかむ上で有効だということができる。さらに、対話による意味生成的な鑑賞を行ったことで、生徒の発言に端を発したやり取りの中で、今後の授業の展開を示し、生徒に以降の学習に対して見通しを持たせることができた。（表6⑦マーキング部分）

図6 【学び合い】は物語の概要を理解するのに役に立ちましたか



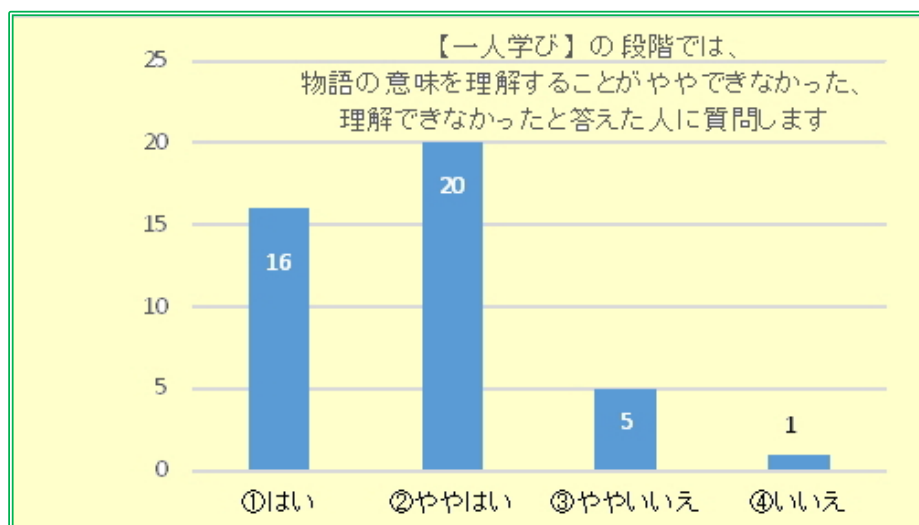
第二次では「なんとなく気になることや疑問に思ったこと、もっと考えてみたいこと」を【一人学び】で挙げ、第三次につなぐ時間であるが、これらを考える前に、疑問点の混乱を防ぐためにオランダの自転車事情やポルダなどの映画の背景や監督について知らせた。図7より、このことが生徒が物語の意味を考えるうえで有効だったということができる。

図7 物語の背景や監督の情報は物語の意味の理解に役に立ちましたか



第三次では、前時に各々が挙げた「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」について、まず、【学び合い】の段階で対話による意味生成的な鑑賞を行った。図8のグラフから分かる通り、ほとんどの生徒が、このことが物語の意味の理解に役に立った」と感じていることから、対話による意味生成的な鑑賞を行ったことは有効だったとい

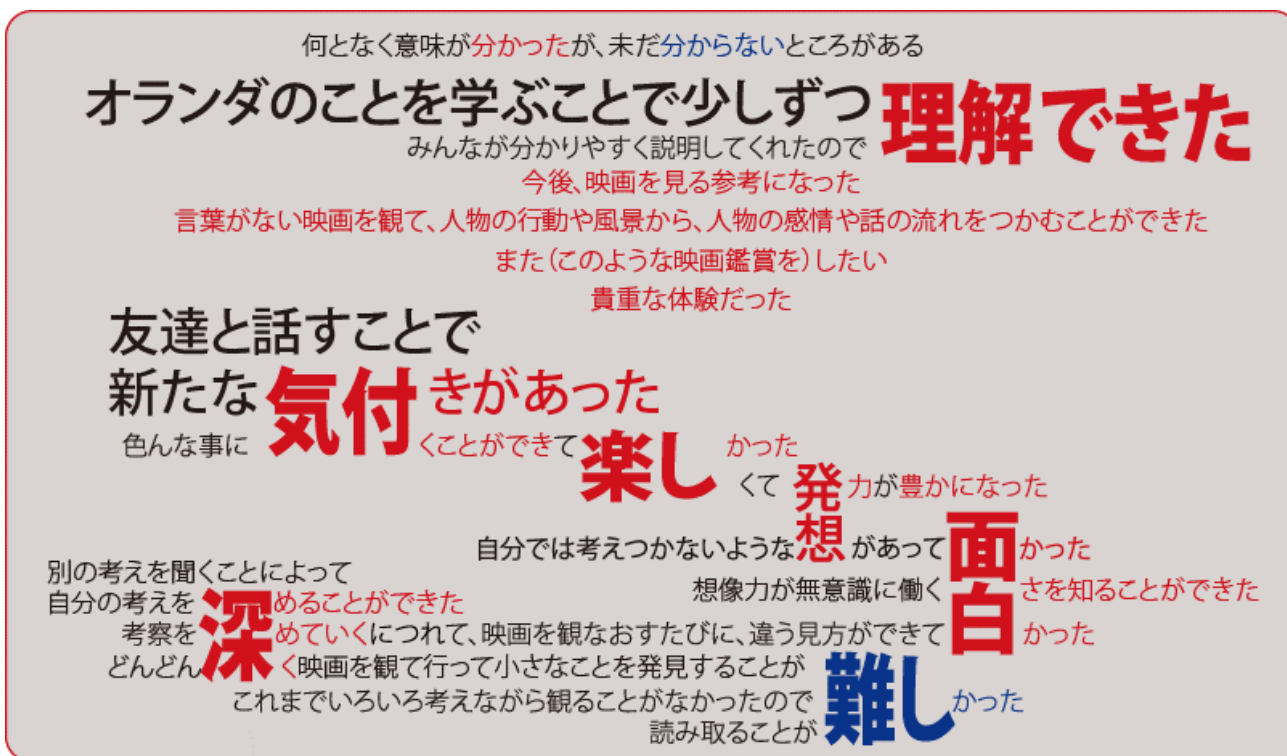
図8 【学び合い】は物語の意味の理解に役立ちましたか



うことができる。これは、表8で示した通り、ほとんどの生徒が物語の意味について自分なりの考えをもつことができたことから分かる。

また、図9は、表8で示した授業後の感想を可視化したものである。<sup>30</sup>肯定的なワードを暖色で、否定的なワードを寒色で表した。また、ワードの出現数をフォントの大きさに示した。その結果、肯定的な感想が圧倒的に多いことが分かる。

図9 本題材に対する感想（図：著者制作）



そして、授業後のアンケートで、「今後、映画を見る時に物語の概要だけではなく意味も考えてみたいと思いますか」と聞いたところ、約90%の生徒が「はい」または「ややはい」と回答した。（図10参照）さらに、「あなたは倍速や10秒送りで観ることについてどう思いますか」と聞いたところ、約80%の生徒が「はい」と回答した。

か。」（図11参照）という質問に対し、「倍速だと映画の世界観が損なわれてしまう」と答えた生徒が、授業前は12人だったのに対し、授業後は24人と倍増している。これらから、本題材は概ね有効だったといえることができる。

## 6.2 課題

第一次では、1時間で物語の概要をつかむことをめあてとしていたが、実際には全クラス30分程度で物語の概要に到達することができた。同様に、第二次でも時間を持て余す生徒が出てきた。逆に、第三次では、時間不足のために、対話による意味生成的な鑑賞が十分にできなかった。表7⑩以降の稿者のナビゲートの様子からも、かなり慌てて対話を進めたことが分かる。

また、表8からは、NO.3の生徒の他に「親は無くとも子は育つ」に似かよったことをNO.7, 8, 18の3人の生徒が書いているが、これは、NO.3の生徒が自分の考えを記録する際に「親は無くとも子は育つ」とつぶやいたために、自分なりの考えが見いだせず

にいた3人がこれに習ったからではないかと考えられる。その根拠は、本題材の感想を見ると、NO.7, 18の2人が未記入、NO.8が「難しかった。」と記入しているからである。図7のアンケート結果からも、物語の背景や監督の情報は物語の意味の理解に役に立たなかったと感じている生徒が存在するのは、時間不足のために十分に対話できなかったことが一因であろう。

さらに、第一次の【学び合い】の段階の対話による意味生成的な鑑賞において、生徒は「船」と「死」を関連付けて考えており、ナビゲーションによって、この「船」が「死」のメタファーであることを引き出すことができれば、その後の授業展開のために有効に働いたと予測できる。また、父の乗っていた船と娘が横たわった船が同じものである必要はないことも理解させ

図10 今後、映画を観る時に物語の意味も考えてみたいと思いますか

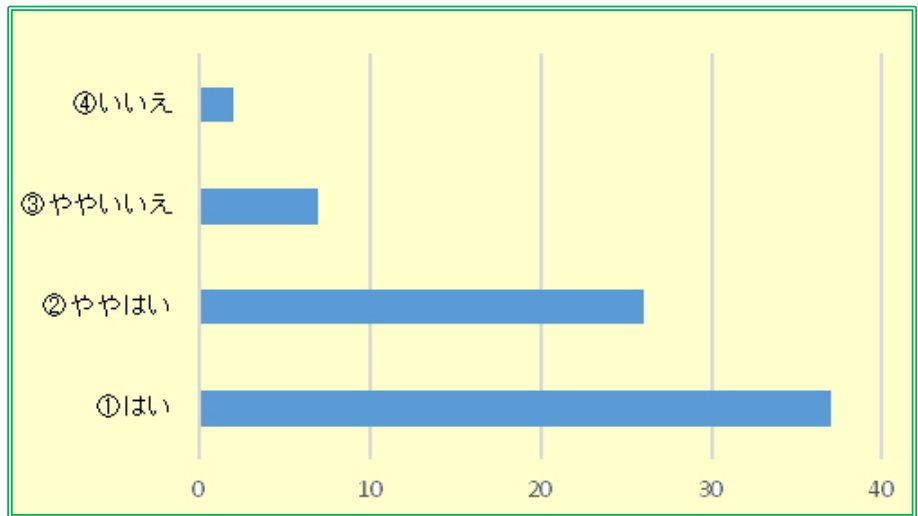
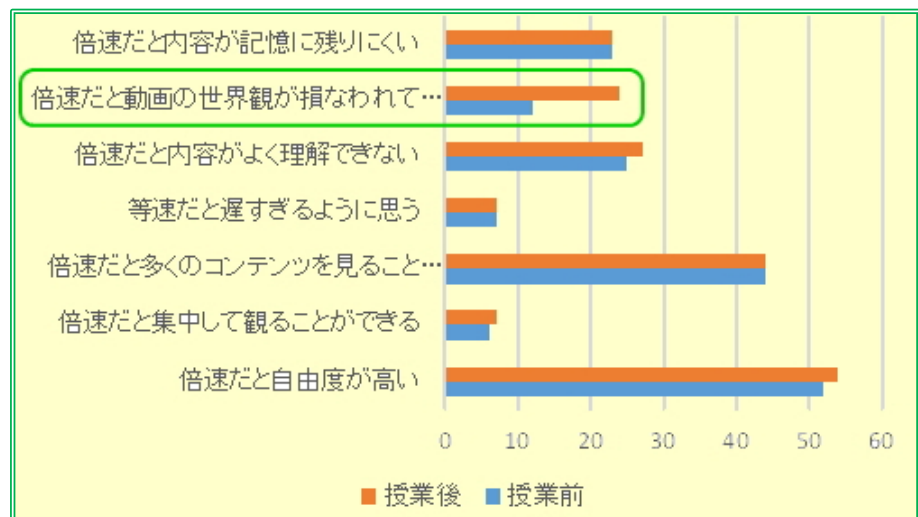


図11 倍速や10秒送りで観ることについてどう思いますか





ることができたかもしれない。しかし、稿者はそれと気づかず、話の流れを変えてしまっている。（表6④⑤マーキング部分参照）また、表6⑨⑩では、娘が父親と別れた場所に実際に通っていたのではなく、娘が父親のことを思い出していることを表しているという発言を求めたかったのだが、そのような考えを引き出すことができなかった。それに対し、第三次では、生徒が同様の考えに到達しているにもかかわらず、稿者がそれと気づいていない。（表7⑨～⑫マーキング部分参照）

これらのことから、本題材には展開や配時など、さらに改善すべき点が多々あること、稿者のナビゲーション力を高める必要があることを痛感した。

## 7. 授業改善に向けて

図11から分かる通り、本題材に対して「難しかった」「未だ分からないところがあった」という否定的キーワードがあったことから、次年度に向けて改善が必須である。そこで、生徒に本題材について改善すべき点を聞いてみたところ、複数の回答が得られたので、その改善策とともに、表9で表した。

表9 今後、この授業のどのような点を改善した方が良いと思いますか

回答の内容	回答に対する分析と改善策
・タブレットを使う	タブレットを用いて、自分なりに考えたことを入力させるなどすれば、対話による意味生成的な鑑賞に慣れていない集団でも本題材を実施することができる。また、生徒の理解度がリアルタイムで分かることも利点である。
・話し合いの時間をもう少し設ける ・他の人との交流する機会を増やしてほしい ・話し合いの機会を増やす	授業の展開を工夫し、話し合いの時間を増やすことを改善策の一つとしたい。
・もっとグループ内での交流を増やしたほうが良いと思う。また、似た意見同士の人を集めて討論してみるのも良いと思う	本校の生徒は、コロナ禍以前は、小学部の時より知識構成型ジグソー法を頻繁に経験しているので、エキスパート班やジグソー班のことをイメージした意見ではないかと思われる。有効な改善策であろうが、次年度も、集団思考の手立ては、知識構成型ジグソー法ではなく、対話による意味生成的な鑑賞としたい。
・自分の考えを追求する時間を増やし、自分の考えを更に追求し深めたい	稿者も終末の個人思考の時間は、長くすべきと思っていたところである。
・一人学びの段階の時間を増やしてもらえたらその後の意見交換がもっとスムーズに行えるかもしれないです。上から目線ですみません。	タブレットの導入により改善できそうである。
・先生が考えることも参考にしたいため、話してほしい。 ・自分の考察はできたが、まだもやもやしてるので先生の考えも伝えたほうがいいのか ・先生が分かりやすく解説してほしい	稿者との対話に期待しているのか、手っ取り早く結論を得たいと思っているのか判断しにくい意見である。安易に稿者が意見を述べるのではなく、展開や時間配分を工夫するなどして、集団思考の場の内容を充実させることで対応したい。
・やっぱりセリフは大事 ・字幕を付けると良いと思う	授業の改善点ではなく、映画の改善点になっている。それほど、台詞や字幕に頼っているということか。

## 8. 新しい授業計画

表10は、現行の授業計画（左）と改善後の授業計画（中央）を併記したものである。右側には改善点の根拠も記した。

表10 授業計画

次	配時	現行の授業計画 (2022年度)	新しい授業計画 (2023年度)	改善理由
第一次	1時間	<p>「物語の概要をつかむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞する(1回目)。</li> <li>物語の概要を自分なりに考えて、クロッキー帳に記録する。【一人学び】</li> <li>対話による意味生成的な鑑賞を行い、クラスみんなで物語の概要を考える。【学び合い】</li> </ul>	<p>「物語の概要をつかむ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>20世紀のオランダの歴史について学ぶ。</li> <li>鑑賞する(1回目)。</li> <li>物語の概要を自分なりに考えて、タブレットでフォームに記入し、送信する。【一人学び】</li> <li>対話による意味生成的な鑑賞を行い、クラスみんなで物語の概要を考える。【学び合い】</li> <li>「物語の意味の形成にかかわることをみつける」</li> <li>「なんとなく気になることや疑問に思ったこと、もっと考えてみたいこと」をクロッキー帳にメモしながら鑑賞する。(2回目)【一人学び】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2022年度の反省から、生徒の思考が中断しないように、これらの情報を事前説明し、本時の導入としたい。</li> <li>◆タブレットの活用によって、教師が生徒の思考をリアルタイムでとらえ、生徒の理解度を確認した上で、ファシリテートできるようにする。</li> <li>◆配時の反省から、本段階を前倒しにして、対話による意味生成的な鑑賞の時間を確保する。</li> <li>◆考えてみたかったことを表明したにもかかわらず、話し合ってもらえなかったという2022年度の轍を踏まないように、ここでは、自分の考えをタブレット等で明らかにするのではなく、メモ程度にとどめておき、次時で活用する。</li> </ul>
第二次	1時間	<p>「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいことを挙げる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>作者のプロフィールや作者の出身地であるオランダの歴史や文化を知る。</li> <li>「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」をメモしながら鑑賞する。(2回目)【一人学び】</li> </ul>	<p>「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいことを掘り下げることで物語の意味に迫る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話による意味生成的な鑑賞を行い、対話の中で気になることや疑問、もっと考えてみたいと思ったことを明らかにしていく。</li> <li>生徒が対話したいと思ったことについて一つずつ丁寧に対話していく。【学び合い】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆2022年度のように、考えてみたかったことが消化できないままに対話が終わったり、生徒の思考が中断してしまったりしないようにするため、対話の中で出てきた「なんとなく気になることや疑問、もっと考えてみたいこと」について、随時対話を深めていく。</li> <li>◆時間が足りない場合は、対話を急ぐのではなく、次時に持ち越すなどして対応する。</li> </ul>
第三次	1時間	<p>「物語の意味を考える」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなの「なんとなく気になることや疑問に思ったこと、もっと考えてみたいこと」を知る。</li> <li>対話による意味生成的な鑑賞を行い、みんなが気になったことについて話し合う。【学び合い】</li> <li>対話による意味生成的な鑑賞の内容を想起しながら鑑賞する。(3回目)</li> <li>物語の意味について、自分なりの考えをまとめる。【一人学び】</li> </ul>	<p>「物語の意味など本作から分かったことをまとめる」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対話による意味生成的な鑑賞の内容を想起しながら鑑賞する。(3回目)</li> <li>物語の意味など本作から分かったことについて、自分なりに考えたことをまとめる。【一人学び】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆物語の意味に到達できなかった生徒が疎外感を感じることなく、自分の考えをまとめることができるよう、本時のめあてを「物語の意味を考える」とせず、「物語の意味など本作から分かったことをまとめる」とする。</li> </ul>

## 9. 終わりに

本題材終了とほぼ同時に新海誠監督作品の「すずめの戸締まり」<sup>31</sup>が公開になった。ある朝、登校指導をしている私に3年生の生徒が「『すずめの戸締まり』観ましたか？」と話しかけてきた。未だ観ていないと答えると、「先生と映画のことを話したいのに。」と、残念そうに立ち去って行った。授業が少しは役に立ったかなと思えた瞬間だった。

### 〈注及び参考文献〉

- 1 三省堂、今年の新語特設ページ「大辞林編集部」による語釈、<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2022/>、2023年1月29日
- 2 日経新聞、ファスト映画で有罪判決 地裁「映画文化の発展阻害」、<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUE169S40W1A111C2000000/>、2023年1月28日
- 3 クロス・マーケティングが2021年に実施した「動画コンテンツを視聴する際の方法」の調査結果のデータ  
[https://www.cross-.co.jp/qssearch.jsp?id=879&searchresult=902&indexname=searchReport1&searchtype=kw&info\\_is\\_and=false&limit=20&contentgroup=CM0801%E7%84%A1%E6%96%99%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88&sort=metainfo8+desc&search=%E5%8B%95%E7%94%BB%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%84](https://www.cross-.co.jp/qssearch.jsp?id=879&searchresult=902&indexname=searchReport1&searchtype=kw&info_is_and=false&limit=20&contentgroup=CM0801%E7%84%A1%E6%96%99%E3%83%AC%E3%83%9D%E3%83%BC%E3%83%88&sort=metainfo8+desc&search=%E5%8B%95%E7%94%BB%E3%82%B3%E3%83%B3%E3%83%86%E3%83%B3%E3%83%84) 2023年1月29日  
※図1は稿者がログインしてクロス集計表をダウンロードし、男女別のデータを一括してグラフ化したもの
- 4 パワーキャストグループ、X世代・Y世代・Z世代とは？特徴や違い・α世代の概要も解説  
[https://powercast.jp/generation\\_x\\_z/](https://powercast.jp/generation_x_z/)、2023年4月14日
- 5 三省堂、今年の新語特設ページ「今年の新語 2021」の選評、<https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2022/archive/2021/Preference06.html>、2023年1月29日
- 6 あらたな課題と向き合うマーケティング記事サイト TSC (Transformation SHOWCASE) Powered by dentsu Japan、Z世代が倍速視聴を好む理由とは？これからのコンテンツ戦略で意識すべき、傾向を探る、<https://transformation-showcase.com/articles/175/index.html>、2023年8月19日
- 7 行定勲 (2017)、「きょうも映画作りはつづく」、(株) KADOKAWA、p.69 ※本の発行は2017年だが、該当箇所は2007年に執筆されている。
- 8 ORICON NEWS、「脱・説明過多」大友啓史監督の映画づくり「感覚や肌触りを作品に反映」、<https://www.oricon.co.jp/news/2155126/full/>、2023年8月19日
- 9 是枝裕和 (2016)、「映画を撮りながら考えたこと」、(株) ミシマ社、p.329
- 10 文部科学省編 (2017)、中学校学習指導要領 (平成29年告示) 解説美術編、p.103
- 11 マイケル・ライアン、メリッサ・レノス＝共著 田畑暁生＝訳 (2014)「Film Analysis (映画分析入門)」、株式会社フィルムアート社、p.6
- 12 同上、p.9
- 13 同上、p.14
- 14 同上、p-p.148-154
- 15 岸辺のふたり HP、<http://crest-inter.co.jp/kishibe/index.html>、2023年4月14日
- 16 マイケル・デュドク・デュ・ヴィット (2000)、「父と娘」、ウォルト・ディズニー・ジャパン、「レッドタートル ある島の物語」 [Blu-ray]Disc2 (マイケル・デュドク・デュ・ヴィット作品集) に収録
- 17 牧島 夢加 [株式会社博報堂ミライの事業室 (ビジネスデザイナー)]、Z世代に流行する「ネタバレ消費」とは？“失敗したくない”若者のホンネ、<https://www.businessinsider.jp/post-236701>、2023年4月14日
- 18 (株) 東宝ステラ＝編 (2016)「レッドタートルある島の物語 映画パンフレット」、東宝 (株) 映画事業部、p.12
- 19 マイケル・デュドク・デュ・ヴィット (2003)、「マイケル・デュドク・デュ・ヴィット監督からのメッセージ」、東芝EMI株式会社、「岸辺のふたり/DVD」の添付資料 p.4
- 20 マイケル・デュドク・デュ・ヴィット (2000)、「マイケル監督インタビュー」、ウォルト・ディズニー・ジャパン、「レッドタートル ある島の物語」 [Blu-ray]Disc1 に映像特典として収録
- 21 日経新聞、「タイパ」重視、生活や企業をどう変える？、<https://www.nikkei.com/article/DGXZQODL126850S2A910C2000000/>、2023年8月20日
- 22 あらたな課題と向き合うマーケティング記事サイト TSC (Transformation SHOWCASE) Powered by dentsu Japan、Z世代が倍速視聴を好む理由とは？これからのコンテンツ戦略で意識すべき、傾向を探る、[19](https://transformation-</a></li>
</ol>
</div>
<div data-bbox=)

showcase.com/articles/175/index.html、2023年8月19日

- 23 行定勲 (2017)、「きょうも映画作りはつづく」、(株) KADOKAWA、p. 69
- 24 パク・チャヌク=著 李賢進=訳 (2007)「キネ旬ムック パク・チャヌクのモンタージュ」、株式会社キネマ旬報社、p. 67
- 25 大林宣彦 (2022)、「最後の講義 完全版」、株式会社主婦の友社、p. 166
- 26 手塚真著 (1989) 視覚と映画 映画で脳の裏側を刺激する、「別冊宝島 100号 映画の見方が変わる本」、(株) ジック p. 59
- 27 福岡県飯塚市立小中一貫校穂波東校 HP、「1 穂波東校授業スタンダード」、[https://www.city-iizuka.ed.jp/honami-higashi-e/userfiles/page\\_contents/393fb376e0e28ab6e8a1e4beaec08e38.pdf](https://www.city-iizuka.ed.jp/honami-higashi-e/userfiles/page_contents/393fb376e0e28ab6e8a1e4beaec08e38.pdf) 2023年9月2日
- 28 表5～8において、コロナ禍で授業に出席できない生徒が多い時期だったことから、出席番号ではなく第一次の出席生徒に通しナンバーを付けた。第三次は、出席できない生徒が更に増えたが、第一次と同じナンバーを用いている。
- 29 パワーポイントを用いて稿者が手打ちで示した図である。
- 30 ウェブアートデザイナーを用いて稿者が手打ちで示した図である。
- 31 すずめの戸締まり HP、<https://suzume-tojimari-movie.jp/>、2023年5月28日

### ‘Watching thought-provoking movies’ by Generation Z

□ Through a class practical of the short animated film ‘Father and Daughter’ □

Toyoko Matsunaga\*

Honami Higashi Junior High School, Iizuka City, Fukuoka Prefecture\*

An increasing number of people, especially those in their 20s, are watching fast movies and movies at double speed or skipping ahead every 10 seconds. This is because the number of films that explain everything with dialogue is increasing.

When we analysed the practice of viewing movies at double speed or by skipping ahead every 10 seconds at our school, we found that the trend was almost identical to that of people in their 20s. Therefore, in this study, we hypothesised that if we showed a movie without dialogue and let participants experience the outline and meaning contained in the movie without relying on the dialogue, the way they watch movies would change like watching them more broadly and deeply. A class was conducted to validate this hypothesis. The results showed a change in awareness regarding watching movies at double speed or by skipping ahead every 10 seconds.

Keywords: video content, fast movies, double-speed viewing, skipping, time performance-oriented, spoilers